



# 防災機能の再構築 広域防災拠点を整備

県では、東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模災害が発生した場合に必要な広域支援部隊のベースキャンプや、支援物資の流通配給基地などに活用する「広域防災拠点」の整備を進めています。



宮城県広域防災拠点のイメージ

## 東日本大震災時の災害対応

東日本大震災の発生の際は、消防や警察、自衛隊などが直後から県内に入ったものの、情報不足により集結する場所が定まらず、効率的に被災地に人員を投入することができませんでした。また、県内に大規模な物資集積拠点がなかったことから、支援物資の集配が混乱し、被災地のニーズに応じて物資を適切に集配することが困難な状態となりました。こうした経験を活かして、支援部隊の集結や物資の集積を行うための拠点を整備することとしました。

## 「広域防災拠点」の実現に向けて

「広域防災拠点」の計画地については、仙台市宮城野区の宮城野原公園の隣接地を予定しています。この計画地周辺には、高速道路インターチェンジ、仙台塩釜港、仙台空港があり、陸・海・空からの人員や物資の円滑な輸送が可能です。

## 機能と利活用

「広域防災拠点」には、消防・警察などの支援部隊が一時集結する場所や、救援物資の中継スペースも確保します。また、広域防災拠点内で使用する大型テントや仮設トイレなどの資機材も備蓄します。さらに、災害医療では、傷病者の緊急搬送などを速やかに行うため、ヘリコプターの臨時離着陸場を確保します。

一方、平常時には、憩いの場や運動公園として多くの皆さまに利用していただくとともに、防災意識などの普及啓発や防災訓練の場として活用することを想定しています。今後は、平成32年度の一部供用開始を目標として整備を進めていきます。

# 広域防災拠点の利活用に期待

## 老若男女の運動の場に



宮城県スポーツ振興財団理事長 伊藤 直司さん

宮城野原運動公園や県総合運動公園「グランド21」を指定管理者として管理している。スポーツ施設を運営する公益財団法人の立場から、広域防災拠点を平常時に運動公園として利活用する際のポイントなどについて提言する。「仙台市の中心部という利便性の高い場所に整備されるので、老若男女が親しめる手軽な運動公園になってほしいですね。競技スポーツの場ではなく、子どもからお年寄りまでが気軽に歩いたり、走ったりする施設でいいと思います」。基本設計(案)では、芝生の多目的広場1面、土のグラウンド2面、1周2kmほどのランニングコースなどを整備する。「文部科学省の統計では、国民が取り組みたいスポーツの1番人気は散歩で、2番目がジョギングでした。街なかを自由に歩け、走れる公園があるということは貴重です。子どもは芝生でサッカーなどのボール遊びをしてもいい。お年寄りはゲートボールやグラウンドゴルフを楽しめる。誰もが自由にスポーツできる空間であってほしい」。利用度を高める工夫についても助言する。「まずは公園の存在を県民に浸透させることが大切。県民がどういう使い方を望んでいるのか、よく調べて利用方法を整理しておくことも重要でしょう」。隣接する宮城野原運動公園は、仙台ハーブマラソンなどビッグイベントの会場になることが多い。「実は最近、選手の待機所がなくて不便を付けていた。防災拠点は平坦な公園でもあるので、待機所にうってつけです。ぜひ利用させてほしいですね」。

## 防災教育の場として活用



東北大災害科学国際研究所教授 伊藤 健さん

国際的、学際的な災害研究を進める研究所の中で、情報管理・社会連携部門の災害復興実践学分野を担当している。地域と学校の防災活動を支え、安全を守る取り組みを実践していく役割を担う。「東日本大震災前は、宮城県に広域防災拠点がありませんでした。さまざまな教訓を生かして、次の災害に向けて万全な備えとなる拠点施設にしてほしい。宮城県だけでなく、全国に役立つような先進的な防災拠点にしてほしいですね」。平常時は自然豊かな都市公園として利用する。県民の憩いの場にするのと同時に、広く県民の防災教育に活用したいと考えている。「平時の利活用こそが大切です。県民に親しまれる公園にして利用度を上げることも重要ですが、ただ遊んだり、スポーツしたりする場でもったいない。公園に来たついでに、何か災害や防災について学習してもらおう場所になってほしい。そういう仕掛けを考えなくてはなりません」。地域には備蓄倉庫など身近な防災学習の素材があるものの、素通りしながらか常意識してもらいたい。そのためには防災訓練の場にするのも大切。例えば、地域との連携が重要になる災害医療の訓練などを子どもや県民に広く見学してもらえば、何より有効な使い方だと思います。防災意識を高める場としての利活用を期待した。

## 災害医療の前進に寄与



大崎市民病院 救急救命センター長 山内 聡さん

災害の発生初期に救急救命活動をする「DMAT(災害派遣医療チーム)」の隊員として活動し、東日本大震災ではDMAT宮城県調整本部長として奔走。新たに整備される広域防災拠点に大きな期待を寄せている。「大規模災害を想定して具体的な対応を事前に検討したり、訓練による送付が始まっています。県の災害対策や災害医療にとって大きな前進になります」。広域防災拠点には、傷病者を一時的に受け入れる広域搬送拠点臨時医療施設「SCU(Staging Care Unit)」が配置される。近くにある国立病院機構「仙台医療センター」との連携により大きな強みが生まれる。「SCUに運ばれてきた重症者を医療センターで処置し、症状の安定を図ってから他の医療施設へ運ぶことも可能になる。集まって来るDMATの司令塔となることもできます」。東日本大震災では、沿岸部の病院から救出した患者全員を医療施設に収容することができず、一部の患者は自衛隊が設置したテントで夜を明かしたという苦い経験も。「災害は季節や天気、時間に関係なく起きる。傷病者の症状を悪化させないように配慮されたSCUが必要だ」。傷病者を救出する警察や消防、自衛隊といった関係機関も広域防災拠点で活動する。「訓練などを通して、医療関係者と救出活動する人たちが顔見知りになることも、実際の災害の現場では多いに役立つ。『宮城県は進んでいる』と言われるような広域防災拠点を目指してほしいですね」。

企画/県広報課 ◎お問い合わせ/県都市計画課 022(211)3135

# 県からのお知らせ

## 宮城県任期付職員採用試験

- 職種・採用予定人員/一般事務・40人程度
●給与・待遇等/県の規定による
●第一次試験日/12月13日(日)
●申込受付期限/11月20日(金)(消印有効)
●受験申込書/県庁1階総合案内などで配布
●任期(予定)/平成28年4月1日~平成30年3月31日(採用された日から5年以内の範囲で任期を更新することがあります)
◎ 県人事委員会事務局職員課
☎022(211)3761
〒980-8570 仙台市青葉区本町3-8-1
http://www.pref.miyagi.jp/site/saiyuu/

## 宮城県・仙台市公立学校教員採用候補者臨時選考

- 科目・採用予定人員/高校家庭科・若干名
●出願資格/高等学校の家庭科の専修または1種の免許状を所有する、もしくは特別免許状取得の意思のある方、専門調理師または調理師の免許を所有し、所定の実務経験がある方
※詳しくは、選考要項でご確認ください。
●給与・待遇等/県の規定による
●第1次選考/12月5日(土)
●会場/県庁行政会議室ほか
●出願期間/11月4日(水)~20日(金)
●願書/ホームページからダウンロードまたは下記へ問い合わせ
◎ 県教職員課
☎022(211)3633
〒980-8570 仙台市青葉区本町3-8-1
http://www.pref.miyagi.jp/ky-teacher/

## マイナンバーの通知カード 11月末頃までにお届け予定です

マイナンバーをお知らせする通知カードの簡易書留による送付が始まっています。送付時期は、個人番号カードコールセンターまたは個人番号カード総合サイトで確認できます。送付時期を過ぎてお手元に通知カードが届いていない場合は、住民票のある市町村にお問い合わせください。【個人番号カードコールセンター】☎0570(783)578(ナビダイヤル)または☎050(381)1250 ◎ 県市町村課 ☎022(211)2333

## 福島原発事故による損害賠償請求研修会および個別相談会

●内容/弁護士や原子力損害賠償紛争解決センター職員を講師とした研修会および弁護士による個別相談会
●対象/県内の法人・個人事業者・個人など
●日時・場所/①11月19日(木)・白石市中央公民館②11月25日(水)・丸森まちづくりセンター③11月26日(木)・築館農村環境改善センター(ふるさとセンター)④~③いずれも午後1時~4時30分
●定員/【個別相談会】①~③いずれも10人程度(先着順)
●申込期限/①11月13日(金)②③11月20日(金)
●申込書/県の各合同庁舎で配布またはホームページからダウンロード
◎ 県庁行政会議室 ☎022(211)2340
◎ 県庁行政会議室 ☎022(211)2340
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/gentai

## 危険物取扱者試験(全種類)

- 日時・場所/平成28年11月17日(日)・石巻工業高校、古川工業高校
●出願/11月26日(木)~12月4日(金)(消印有効)に郵送により下記センターへ
●願書/下記および主な消防署などで配布
※一部の申請を除き電子申請も可能です。
◎ 消防試験研究センター宮城県支部
☎022(276)4840
〒981-8577仙台市青葉区堤通南町4-17
◎ 県消防課 ☎022(211)2374

## 児童虐待防止推進月間 ~社会全体で児童虐待の解決~

11月は「児童虐待防止推進月間」です。「殴る・蹴る」のほか、「意図的に無視する」「長時間放置する」なども虐待の1つです。虐待を発見したとき、または虐待が疑われるときは、お住まいの市町村や保健福祉事務所、児童相談所もしくは下記ダイヤルに連絡してください。あなたの連絡・相談が子どもを守り、子育てに悩む保護者を支える一歩になります。◎ 児童相談所全国共通ダイヤル ☎189 (管轄の児童相談所に自動転送されます。)
◎ 県中央児童相談所 ☎022(784)3583
◎ 県北児童相談所 ☎0229(22)0030
◎ 県東児童相談所 ☎0225(95)1121
◎ 県南児童相談所 ☎022(211)1020
【仙台市にお住まいの方】
◎ 仙台市児童相談所 ☎022(219)5111

## 介護の日イベント 「介護の魅力フェスタinみやぎ」

介護の仕事を身近なものとして捉えていただくため、介護ロボットの展示や介護相談のほか、来場者の皆さんが楽しめるステージイベントも実施します。ぜひご来場ください。●日時/11月8日(日)午前10時~午後3時30分
●場所/アール1階・2階アトリウム
●入場料・申し込み/無料・不要
◎ 宮城県介護福祉協会 ☎022(398)5767
◎ 県長寿社会政策課 ☎022(211)2536

## 事業引き継ぎ・譲り受けの相談窓口

中小企業の経営者や個人事業主で、後継者が不在などにより、今後事業をどのように継続するか悩んでいる方や、中小企業の事業を譲り受けたい方を対象に、事業承継に精通した弁護士・公認会計士がアドバイスします。金融機関などの関係支援機関のご紹介も可能です。相談は無料です。秘密は厳守しますので、お気軽にご相談ください。【相談機関】◎ 宮城県事業引き継ぎ支援センター ☎022(722)3884
◎ 県商工経営支援課 ☎022(211)2742

## 「ワーク・ライフ・バランス支援アドバイザー」を無料派遣します!

社員の労働意欲や生産性の向上、優秀な人材の確保など、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)にはさまざまな効果が期待されています。県では、人事・労務の専門家を派遣し、仕事と生活の調和の取れた働きやすい職場づくり

のための助言を行っています。●助言内容/労働時間の削減や休暇の利用促進、女性・高齢者の雇用、短時間勤務社員制度など仕事と生活の調和が取れた働きやすい職場づくりに関すること
●対象/県内中小企業(従業員300人以下)
◎ 県雇用対策課 ☎022(211)2771
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koyuu/advisor.html

## さんフェア宮城2015

農業、工業、商業などの専門高校で学ぶ生徒が一堂に集い、自らの学習成果を紹介し、専門高校の魅力を発信します。ぜひご来場ください。●内容/キッズビジネスタウンやファッションショーなどのイベント、高校生が育てた農産物や作品の展示・販売など
●日時/11月7日(土)午前10時~午後2時
●場所/県庁、勾当台公園
◎ 県高校教育課 ☎022(211)3625

## ラムサール条約湿地登録30周年記念「伊豆沼・内沼感謝祭」

●内容/沼を保全・利用している方からのお話や、「ヨシ」などの沼周辺の素材を使った「ワイスユース(賢明な利用)」クラフト体験、来場者全員でのマゴのねぐら入り観察など
●日時/11月28日(土)午前9時~午後4時30分
●場所/宮城県伊豆沼・内沼サングチュアリセンター※駐車場有り
●入館料/無料
◎ 宮城県伊豆沼・内沼サングチュアリセンター ☎0228(33)2216
◎ 県自然保護課 ☎022(211)2672

### 食材王国みやぎ

## 宮城がうまい! Vol.2~仙台白菜~

食材王国みやぎが誇るおいしい食材をご紹介します。

### 宮城県の伝統野菜「仙台白菜」

明治時代から伝来した種子をもとに日本の白菜の原型の一つである「松島白菜」が作られました。仙台白菜は、その松島白菜を改良したもので、一般的な白菜に比べてエグみが少なく、甘みがあって食感が柔らかいことが特徴です。仙台白菜は大正末期から昭和の初期にかけて東京をはじめ全国に出荷され、一世を風靡しましたが、その後は他の白菜に押されてしまい、地元・宮城でわずかに生産・消費されるだけとなりました。

### 豊かな味わいの秘密

現在、東日本大震災からの復興に向けた取り組みとして「みんなの新しいふるさとづくりプロジェクト 伝統野菜「仙台白菜」」が展開されています。このプロジェクトは、地元の伝統野菜であり、塩害にも強い仙台白菜の生産を復活させることで、被災した沿岸部の農業の復興を支援するものです。生産から販売、調理法の開発・紹介など、仙台白菜の消費拡大に向け、JA全農みやぎを中心として、生産者、みやぎ生協、食品メーカー、そして県内の高等学校(農業科や家政科)などが一丸となって取り組んでいます。仙台白菜には、復興や地域活性化への願いが込められています。

### 仙台白菜の魅力を伝えます。

ゼリ・曲がりネギ・仙台雪菜といった野菜と共に宮城県を代表する伝統野菜として古くから地元・宮城の方々に愛され続けた仙台白菜は、11月から2月までが旬。寒い時期に皆さんも食べる鍋料理には欠かせない食材です。これまで受け継がれてきた伝統を守るためにも、この機会にぜひ仙台白菜を手にとって食べていただきたいですね。

みやぎ野菜PRの会の代表 大宮 敦子さん

◎ 県食産振興課 ☎022(211)2813  
食材王国みやぎホームページ http://www.foodkingdom-miyagi.jp/